

議案第20号

1984年秋季教師検定試験合格者承認に関する件

議案20頁挿入

記

1984年11月12日

日本基督教団

総会議長 後宮俊夫 殿

教師検定委員会

委員長 辻宣道

1984年秋季正・補教師検定試験合格者を第13回(紙上臨時)教師検定委員会において、下記のように決定しました。この合格を承認していただきたくおねがいたします。

1984年秋季教師検定試験合格者承認に関する件

学科試験 10月2日(火)東京会場一教団会議室

京都会場一聖公会京都教区会議室

(京都会場は開会礼拝後、不測の事態が発生したため筆記試験中止、レポート形式の試験に切りかえて実施した。)

面接試験	10月3日(水)～4日(木)正后まで	東京会場
	10月4日(木)夜～5日(金)	京都会場
	正教師	補教師
受験志願者	70名(1983年追試1名含む)	30名
合格者	59名	11名
不合格者	11名(1983年追試1名含む)	3名
受験継続者(いわゆるCクラス)		1.6名

教団問題の生命たりうるか？ 検定試験

陰謀判定を承認すれば教団は自滅！

検定委員会は、いくつもの誤りを犯してきました。

10月2日 京都試験会場での筆記試験「不可能」判断。

10月30日 東京での判定委員会の「解散」判断。

その挙げ句に、卑劣な通信（文書）判定を秘密裏に強行。

問題を隠蔽し、無責任な逃亡に、必死になっています。

しかも、それぞれを、「部外者の不運去や物理的な介入」など、理由のない、信仰（者）以下の低次元な被害者意識によって責任転嫁してきています。

私たち、それぞれの現場に参加してきた者は、検定委員会の誤りも、より包括的に、より根源的に、治かそうとしてきました。

京都会場での出来事は、決して「突発的な事故」でも「緊急のレポート化による拾収」でもない、祝福として把握されるべき深い意味が啓示されます。例えば、レポートは、必ずしも筆記試験以下の方法であるとは限らず、受験者各々を支えている教会や信徒の群れの広がりや考慮することで、個人に解消しえない、共同受験の有り持にふさわしくなります。撮影ルムの共同管理の問題は、判定権の検定委員会による秘密独占

という大問題を、比喻として照らし出し、さらけ出してきました。

東京会場での筆記試験実施と京都會場とのズレ、教師問題と考える会への事情の隠蔽、話し合いの欺瞞と判定強行の姿勢、等の問題が、まさに明らかになろうとしていた矢先の、判定委員会の解散は、取り返しよのない検定委員会の暴挙です。それ以上に、通信（文書）判定の悪業は、歴史上類を見ないような陰謀として、断じて許しかたい、罪ばかりやり方です。

問題は、過去15年間の苦悩に満ちた教団問題の、根本的解決すなわち生命の救出が、この検定試験にかかっており、その唯一の突破口は、陰謀判定を、検定委員会それゆえ教団総会が自己批判して自滅に撤回すること以外にはありません。そうでなければ、教団そのものの自壊、教団総会の自滅は避けられないでしょう。その深刻さで、全ての検定問題史をとり直し、これまでの試験の不可能性と判定の不可能性に気づくことが必要です。最低条件として共同受験と受験方法の自由選択を、今期の委員会の誠実な再総括と合わせて、実現する意味・責任・決断が、この総会に委ねられているのです。

84年 11月 12日

10.2, 4, 5 京都試験場 と 10.30 判定会議 参加者

第6回常議員会議事録

日 時 1984年11月12日(月) 前9.00～正午

場 所 稲根小浦園 コンパシヨンプレス

出席者 後名 俊夫 岸本 羊一 辻 寛
 青木 敬和 荒谷 恒喜 岩井 健作 小野 一郎 笠原 金吾 川谷 威郎
 泉原 重夫 斎藤 昭夫 出口 力 名嘉 隆一 原 忠和 鷺山 林蔵
 浅野 直人 井上 昌保 小田原紀雄 大島 寿一 大下 幸恵 岡田 正勝
 川端純四郎 西原基一郎 八木 清子
 戸原 直 菅道 内藤 留幸 矢戸 寛 津村 正敏 橋本 栄一 深谷 松男

陪席者 (転費上その他による陪席者)

教区総会議長 五味 一 中条 和敏(代) 池名 仰 安藤 肇(代)
 内藤 協 阪口 吉弘 宇都宮佳果 藤本 寿 小島 誠夫 田中 道宣
 山里 勝一

その他 平良 修 土肥 昭夫 鎌田 吉明 番田 望 守永 誠治

(陪席を要請した者)

大塩清之助 大宮 博 護井 康六 菅沢 邦明 高橋 泰二 滝口 勝
 松隈 正徳 望月 修治 横田 勲

(陪席を要求した者)

岩橋 誠治(東京復活) 高橋 和彦(東京復活) 谷村 徳幸(城西)
 野々村 輝(神奈川教区) 山本 聖(加茂兄弟団)

(事務局・出版局・年金局)

中嶋 正昭 乙橋 和雄 A・マシューズ 君島洋三郎 西尾 揚
 吉岡敬太郎 本村 利春 青地 亮

傍聴者 松下 昇

1. 礼 拝

午前9時、後名俊夫議長はマルコ1章1～13節を朗読し、開会礼拝にあわせて教団総会のためと、西中込教区周陽教会(渡辺重夫牧師)のために祈った。

2. 開 会

議長は辻 寛書記に挨拶を命じた。書記は挨拶を行い、出席者20名で常議員会の成立を確認し、議長は開会を宣した。

3. (22-B162) 要請陪席者承認に関する件

(1) 教規第34条④にもとづく転費上の陪席者を承認した。

(2) 教規第34条⑤にもとづき、次の陪席者を承認した。

COC向題その他 菅沢 邦明
 石日大韓基督教会との宣教協力 大塩清之助
 平糶キリスト教団との合同のとらえ直し 徳永 五郎

(1)

東京教区向題 横田 勲 佐野 英二 大宮 博 竹前 昇 高橋 泰二
 藤原 位美

教団総会議事運営委員 東島 勇兵 護井 康六 滝口 勝 吉岡 光子

4. (22-B163) 陪席要求に関する件(1)

教規第34条⑤にもとづき、次の陪席要求を承認した。

高橋 和彦(東京復活) 谷村 徳幸(城西) 岩橋 誠治(東京復活)
 野々村 輝(神奈川教区) 山本 聖(加茂兄弟団)

5. (22-B164) 傍聴要求に関する件

松下 昇氏からの傍聴要求について、書記は次のように説明した。

「この後の教団総会への傍聴要求も出されているので、おはかりしたい。今回の総会には教団外の人々から多くの傍聴申込みが出されたが、その大半は統一教会と関係があったので、『京教新聞』の取材をも含めてことわった。松下 昇氏の場合は教師検定試験向題に関連しての傍聴申込みであるがどう扱うかをおはかりしたい」

この件をめぐる、「一般原則で一面的にすべきではない」、「松下氏は山本 聖氏とともに行動し検定試験に関心をもっている。傍聴ならば許可してもよい」、「山本氏が参加しているのであるから教団外の信徒である本人をとくに迎える必要はない」、「本人の意見を他人が代行することはできない。この件では傍聴の要求であるから許可してよいのではないか。松下氏は検定試験を継続して担っている」などの意見があった。

以上の討議ののち、議長は採決をはかったところ、24名中13名の賛成で傍聴を許可することとした。

6. (22-B165) 前回議事録承認に関する件<議題1>

書記は、教団所定の修正箇所を読み上げ、議場はこれらの修正を含めて第5回(臨時)常議員会議事録を承認した。

7. (22-B166) 書記報告<議題2>

書記は資料2にもとづき報告した。採決の結果議場はこれを承認した。

8. (22-B167) 総幹事報告<議題3>

中嶋総幹事は資料3にもとづき、報告を行った。報告について、議場はこれを承認した。

9. (22-B168) 海外出張報告<議題4>

(1) 岸本羊一副議長は、資料5.12より、'84年9月17日～22日までの韓国における2教会総会と協議会、記念大会の報告があった。

(2) 川端純四郎常議員より、'84年7月9日～18日まで、ジュネーブで行われたWCC中央委員会の報告があった。

以上の報告を承認した。

10. (22-B169) 第23回教団総会開催に関する件<議題13>

書記は資料8にもとづき、次のことを提案した。

(1) 准議員追加

高寺 幸子 谷本 一丸 西尾 操 甲賀 道生

以上の書記提案のほかは、小田原紀雄常議員より谷村徳幸氏、泉原常議員より山本 聖氏の提案があり、議場は以上6名の追加を承認した。

また、福田正俊氏より健康上の理由で辞退の表明があったので、准議員522番を欠番とすることを承認した。

(2)